

外部講師を活用した事例 ⑥

教育課程への位置付け

高等学校保健体育科:第1学年

関係団体(講師等)

・北海道医療大学教授

指導形態(工夫したこと)

・生徒が当事者意識をもって学びを深めることができるように、事前に講師による校内研修を実施し、「生命の安全教育」に対する教員の理解を深めた。

授業のねらい

- ・精神疾患の発病の要因と主な症状を学び、若い世代の自殺の要因として、精神保健上の問題であることを理解できるようにする。
- ・精神保健における今日的な課題を発見し、それらを解決する方法を考え、表現できるようになる。
- ・「自殺予防」について触れ、命の大切にしようとする態度を養う。

授業の内容

- ・ 精神疾患の要因
(生物的要因・心理的要因・身体的要因・社会的要因)
- ・ おもな精神疾患
(うつ病・統合失調症・不安症・摂食障害)
- ・ 若者における課題
自殺、現代社会と精神保健(嗜癖)



校内研修に基づいた授業の様子

<実際の授業で工夫したこと>

導入

・自分の日常生活を振り返らせ、どのようなことがあると心や体に変化が見られるか想起させた。

展開

- ・精神疾患の要因・主な症状について説明し、精神疾患の症状の共通点について、考えさせた。
- ・精神保健における今日的な課題(若者における課題、現代社会の課題、コロナ禍)について説明した。

終末

・まとめ、振り返りをノートに記入させ、自らの考えを整理させた。

<生徒や指導した教師等の感想>

- ・自殺と精神疾患の関連性や、コロナ禍における精神疾患の発病リスクについて生徒に考えさせることで、今日的な課題に向き合わせることができて良かった。(教師)
- ・1時間の中で精神疾患について学び、今日的な課題について考えるには内容が多すぎたので、2時間に分けて、掘り下げて学習させるべきだった。(教師)

授業実施の成果と今後に向けて

○成果

・事前に講師による教員向けの校内研修を実施したことにより、教科書の内容だけでなく、今実際に起こっている課題や、精神保健について、他人事ではなく、自分事として捉えさせ、命の大切さを学ばせることができた。

○今後に向けて

・授業内容について、時数を工夫し、生徒自らが課題を考え、判断、表現できるようにする必要がある。